

授業方法について独自に工夫していること 【人文社会学系】

出欠の際に毎回ランダムに受講生に数字を振り、数字ごとにグループをつくり、グループワークをしている。ランダムにグループを作ることで、アクティブラーニングを取り入れるだけでなく、様々な学生と授業内で交流を図る機会を与え、かつコミュニケーション能力を磨く機会を作る工夫をしている。毎回、異なるテーマにつき、パワーポイントで視聴覚資料を紹介しつつ、民族衣装の実物やクルアーンの現物など、異文化の産物に直接触れる機会を作っている。また、希望者限定で強制ではないということを充分にアナウンスしつつ、昆虫食などの体験機会も提供している。

特に変わったことはしておりませんが、理論的なことを説明した後、実践を行うように配慮しています。やりとりを重視した授業を行っています。

1. 附属の研究発表会への参加や授業を参観してのレポートの提出を求め、成績に取り入れている。
2. 全国教研や県教研のレポート内容を紹介している。

リポジトリにある拙稿をダウンロードさせて、読ませ、活用している。

できる限り、翌年度の教育実習や、今後教員になった時に有益な活動になるよう、授業内の活動を考えたり、そのための議論等を行っています。模擬授業の時間も、グループ分けにしていますが、より長い時間を設定していますので、実習時の授業をイメージしやすいかと思えます。

- ・次回の授業を教科書で予習させている。予習した内容を当日の授業の冒頭の小テストで確認させている。
- ・次回の授業で取り上げる課題を提示し、自分の考えを準備してくるよう指示している。
- ・当日の授業では、準備してきた自分の考えをもとにグループで議論させ、新しい気づきを得られるようにさせている。

1人につき2種類の課題を出し、グループごとに学び合った後、個人個人に学びについて提出してもらっている。発表に関して、学生同士が相互に評価(採点・コメント記入)するようにしている。

一番大切にしたことは、授業は(大学の授業といえども)学生たちが主体的に作り上げるものであるという考え方です。学生が楽しく、しかし有意義に授業を作ることができるように支援することが教員の役割であると思えます。そのために、毎回、全員の学生一人ひとりを具体的に励ますことを重視しました。

前半の授業については、授業担当者が異なるため、不明。
後半の授業については、国語選修、国語・書道専攻における4年間の学びを総括できるよう、国語の専任教員全員で各専門分野での学びを体系的に振り返るようにしている。また、国語教育の分野においては、学外の講師を招いたシンポジウムを開催することにより、これまでの学びが現場での実践に繋がるよう工夫している。さらに、学生が自ら積極的に学びを進めた分野については、当該の分野の教員の個別指導による総括的な学習の場を設定した。

- ・生徒指導・進路指導・キャリア教育を実践する上で必要な理論を学ぶとともに、その理論が実践にどう生きるのか、具体的な事例を通して考える機会を設けている。
- ・学生同士が授業を深め合えるようグループディスカッションを複数回実施している。
- ・グループディスカッションの評価の中に自己評価を取り入れ、自己の成長を意識して活動に取り組めるようにしている。
- ・これまでの当たり前を見直し、新たな視点を得られるよう、ワークのテーマやVTR視聴の教材を工夫している。

◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

模擬授業は班別を実施しました。その際に班員全員で、学習指導案の作成や授業展開の方法について検討することを求めました。事前の班員同士の話し合いは、今後の教員としての力量を左右することを徹底させました。また、実際の教育現場にいた私の経験から、教育には、授業、校務、担任業務、部活動、地域社会とのかわりなど、様々な領域があるが、教科指導は根幹をなすものであり、教科指導で生徒の信頼を得ることが大切であること、そのためには、十分な教材研究が重要であり、模擬授業はそれを披露してもらう機会であることを承知して授業に臨むことを徹底させました。

学生の自主的な活動が課外で行われるように、課題の工夫や授業内でのディスカッションを適宜取り入れている。

授業では、毎回プレゼンテーションソフトやGoogle formsなどのICTを活用して学生の内発的動機づけを高める講義を心がけている。主として、授業の前半は理論的解説(含む映像教材を用いた学習)を行い、後半は「ロールプレイ」や「実習」を随時取り入れ、学生自身が主体的に授業に参加できるよう工夫している。さらに、授業の最後には毎回「リアクションシート」を配布し、次回の授業の冒頭にプレゼンテーションソフトを使い学生の質問に回答することで、双方向の授業を心がけている。また、学生の授業外の学習効果促進のため、学生に対しては授業課題レポートを課し、提出された全員分のレポートについては、内容及び形式面に関するフィードバックを行っている。

テキストの適切な使用。
補助プリントの作成。
新聞記事等を活用した、現在の教育問題との関連づけ。

・授業開始時に2～3問、時事問題を出しています。
・毎時間、問題点について、各自で考え、グループで検討し、全体の場で発表させています。授業終了10分前に「授業の振り返り」をする時間を設け、授業の中で気づいたこと、他の学生から受けたアドバイスを次回どのように生かしていくのかなどを考えさせています。

テキストや配布資料の記載内容を根拠に論理的に考え、表現する力を身につけさせるための工夫に腐心している。

・今年度からLMSの一つであるMoodleを授業に取り入れた。本学では「まなびネット」と呼ばれているものである。学校現場でこのようなICT機器を活用できることが求められていることから、講義の途中から学生たちに説明・了解を得た上で導入した。具体的な活用方法としては、講義資料(パワーポイントをPDFにして掲載、関連資料の掲示、関連図書やホームページのURL)を掲示して予習・復習ができるようにしたり、課題の提出先(コメントカードを紙からデジタルにかえ、講義後本を読んだり学生間で話し合ったことをふまえて落ち着いて考え提出することができる)、プレゼンテーションの予習と復習(学生が発表で使うパワーポイント資料を事前に掲示させ予習、コメントを後日掲示＝復習)などで活用した。学生からの評価も好評だったので、次年度以降も引き続き活用予定である。

①国語科研究BI できる限り学生たちに考えさせたり作業をさせる時間を多く取り、なるべく学生自身が動くように配慮した。
②国語科研究AI 1年生の授業と言うこともあり、「教わる」ことと「教える」ことの違いを意識できるように学生の立場になったり、教える立場になったりして考える授業にした。

小学校国語科の主な学習内容と指導について、中学年を中心に、児童の立場に立ってグループ学習をしたり、ワークシートを使用したりする演習を取り入れ、理解を図ることができるようにしている。

SDGs(国連が2015年に発表した「持続可能な開発目標」)をテーマとして、中学校地理分野を想定して講義を進めていった。学生にはSDGsの17の目標のうち中学校地理分野の内容に合致する部分を分担して発表してもらった。発表に際しては、「民族問題」「廃棄物問題」「気候変動」「水問題」「都市問題」「海洋資源問題」「陸上資源問題」「エネルギー問題」の8項目を取り上げ、各項目について「アジア」「ヨーロッパ」「アメリカ」「アフリカ」「オセアニア」の5地域を学生に担当してもらい、A4一枚のレポートを作成させて発表することを義務付けた。また、4人1組で模擬授業を担当してもらったが、その場合にも必ずSDGsの17の目標に関連させた授業を行うこととした。

あるテーマに沿って、集団討議を行う授業を多数回行った。

CⅡにおいては、日本の書を中心として扱うため、日本書道史を概観したあと、高等学校芸術科書道にて学習される、日本の代表的な書の古典作品を精選し、基本的には各回において、一作品ずつ、系統的に学習できるようにしている。